

海外レポート

アメリカ留学記 ーチャイルド・ライフ・スペシャリストへの挑戦ー

沖縄県立南部医療センター・こども医療センター

チャイルド・ライフ・スペシャリスト 佐久川 夏 実

1 はじめに

チャイルド・ライフ・スペシャリスト (Child Life Specialist; CLS) という職業をご存知でしょうか？簡潔に説明すると、「遊びを通して入院中の子ども達の不安やストレスを和らげ、主体性を持って治療に臨めるよう支援する仕事」です。北米で発展した職業で、現在まだ日本で教育機関がないのでCLS資格取得の為に北米へ留学する必要があります。日本では2015年11月現在で40名ほどがCLSとして活動しています。CLSの役割や業務内容についてお話する機会はよくあるけれど、チャイルド・ライフ留学についてはあまりお話しした事がないので、留学時代を振り返りながら書いていこうと思います。



院の卒業式

2 CLSを目指したきっかけ

子ども関係の仕事に就きたいと漠然と考えていた高校時代に偶然テレビでCLSについて知りました。必要な仕事だなと感じると同時に、日本では資格を持つ人が少ないという事と沖縄ではもちろんまだいないという事を知り興味を持ちました。ただ資格取得までの道のりが高校生の私にはとても遠く感じ、なりたいと決意することはその時点では出来ませんでした。進路選択は悩みながらでしたが、大学から留学し英語を学びながら児童発達や児童心理関係の

授業を取りました。アメリカの大学が私に合っていた点は、入学後に専攻を決められたこと。実際学んでみて、CLSの土台となる児童発達を勉強する事が一番興味を持って、楽しいと思えました。そして実際にアメリカや日本のCLSさんにお会いしてお話をきく機会を得て、徐々にCLSを目指そうという決心をすることが出来たように思います。もう1つ心を決める理由となったのが、留学初期に沢山の人の支えられた事です。アメリカで出会った沖縄出身の方々には励まされ元気をもらっていましたし、沖縄では離れていても私の事を信じて応援してくれる家族や友人がいてくれたからやってこられました。仕事を通して今まで受けた恩返しをしたいという思いがあったからCLSを目指す決心ができたと思います。



カリフォルニア州立大学ノースリッジ校
(写真：大学公式HPより)

3 CLSになるには

CLSになるには三つの条件があります。

- ① 少なくとも学士号を取得すること
- ② Child Life Council (CLSの認定団体) が定める教科を履修すること
- ③ CLS指導のもとで最低480時間のインターンを

行うこと

三つの条件を満たした上で認定試験に合格すると認定CLSとなります。

現在日本でCLSとして活動している方々の経歴は様々で、日本の大学卒業後に院留学をしてCLSとなる方や、看護師や全く別の仕事を経験しCLSを目指して留学する方もいらっしゃいます。私の場合はアメリカの大学を卒業後、一度沖縄に戻り3年程小学校英語指導助手など子どもと関わる職務経験を積みました。その後、カリフォルニア州にある私立ラバーン大学大学院のチャイルドライフ専攻課程に進学しました。

大学院に入った当初、やっと本格的にチャイルド・ライフを学ぶことにとてもワクワクしたのを覚えています。アメリカの大学院の授業はディスカッション・発表・論文作成といった能動的な課題が多く、日本の授業とは違いがあります。日本人の私は自分の考えを皆の前で述べる事になかなか慣れず、授業は緊張することも多かったのですがクラスメイトや教授がそういった文化の違いや言葉のハンディをよく理解してくれサポートしてくれました。それで



ラーバン大学キャンパス
(写真：大学公式HPより)



一緒に学んだクラスメイト達

も一番苦戦したのがプレゼンでした。人前で話す事に苦手意識を感じていた私はプレゼン前日は緊張でご飯が喉を通らずという状況がよくありました。そんな私を気遣ってくれ支えてくれたのがルームメイトやハウスオーナーさんでした。留学は大変だったでしょう、と聞かれることが多いですが、大変な事は終わると達成感に変わるし、沢山のの人に支えてもらった感謝の気持ちが残ります。そういう状況だからこそ人の支えがより有り難く感じるし、周りの人達のおかげで楽しい事は二倍楽しく、辛かった事は半分くらいの思い出となっています。

4 インターンシップ

CLSになるための一番の難問はおそらくインターンシップです。学校の授業と平行してインターンの申し込みや面接などを行わないといけませんでした。私は幸運な事にロサンゼルスUCLA Mattel Children's Hospitalでインターンをすることができました。毎日の実習に加え毎週課題が出され提出しないといけなかったのが毎日たくたでしたが、お手本にしたいスーパーバイザーと出会え実践的な支援方法を沢山学べたととても充実した期間でした。インターン中は、スーパーバイザーがついてはいますが病院スタッフの1人として働きCLSとしての仕事も任されました。

インターンとしての一日は以下のような流れでした。

- ① 担当患児のカルテをチェック
- ② ベッドサイドへ声かけにいきその日の様子をアセスメント、一日の業務の優先順位を決める
- ③ スケジュールを考慮にいれながら、それぞれの患児に合わせた支援を行う（プレパレーション、処置中のサポート、遊びの援助、など）
- ④ 多職種ラウンドや会議に参加する
- ⑤ プレイルームの管理、ボランティアのコーディネートを行う
- ⑥ 情報を他職種に伝える、カルテを書く



スーパーバイザーと

最初から全てを1人で行うのではなく、スーパーバイザーのシャドーイングから開始し徐々に立ち上げていくというプロセスを踏めたので、徐々に1人で出来るようになると自信を持つ事ができました。最終日にスーパーバイザーが「今まで私が受け持ったインターンの中でもベストなインターンの一人だと思います。きっと日本でも良いCLSになれるはず。」とハグをしてくれたときはとても嬉しく感じました。

5 現在

そんな留学生生活を周りのサポートのおかげで無事終え、ずっと目標にしていた沖縄でCLSとして働く

という事を実現することができました。最初の1年は、アメリカとの違いに戸惑ったり、CLSとしての職業アイデンティティーを再構築したりスタッフに認識してもらうことに試行錯誤していたように思います。CLS歴2年目に入った現在も、まだまだ至らぬ所もありますが他スタッフとの連携を大切に一人一人の患児と丁寧に寄り添っていきたいと思っています。最近の嬉しい出来事ですが、入院していた女の子のお兄ちゃんがCLSになりたいと言ってくれています。いつか、CLSの後輩が出来ますように。そして、チャイルド・ライフの種が沖縄でも根をはりぐんぐん伸びて子ども達に寄り添い支える大きな木となり花咲きますように。それが私の願いです。

